〈合格体験記〉

図書館職員受験体験記

文学部　文学科　4年
I.H

はじめに

私は今年度（平成26年度）に実施された司書職採用試験において、都道府県立図書館に合格し、採用されることになりました。ここでは、受験のスケジュールや試験概要、対策などについて書きたいと思います。

受験スケジュール

私が受験勉強を始めたのは、2013年4月でした。手始めに行ったのは、明治大学図書館情報学研究会の勉強会の参加とリバティーアカデミー講座の公務員試験対策の受講です。それから1年間は勉強のみに専念していました。

2014年3月ごろになってくると、採用試験説明会を行う団体が出てきます。5月になるといよいよ試験が始まります。ここから12月までは、月に2～3回はなんらかの試験を受験している、という状況が続きました。さらに、試験と勉強の合間を縫って施設見学を行うこともあり、あまり余裕のない日々を送ることになりました。

司書職の採用は、大卒程度か短大卒程度かで試験を実施する時期が異なります。チャンスはなるべく多い方が良いと思いますので、情報収集を注意深く行い、受験の計画を立てることをお勧めします。末尾に私の受験スケジュールを載せておりますので、よろしければ参考にしてください。

試験の概要

司書の正規採用を受けるには、公務員試験を受けることが第一に考えられます。試験では、択一の教養試験・択一もしくは記述の専門試験・人物試験（面接）が行われることが多いです。なかには作文もしくは論文試験がありますが、それぞれの団体に合わせて対策をする必要があります。

教養試験について

教養試験は、ほとんどの試験で実施されます。数的処理、文章理解、社会科学、自然科学、人文科学の分野から40～50問出題されることが一般的です。膨大な範囲からの出題になりますが、おおよそ70％ほどの正答率で合格が可能なので、頻出の問題や時事に関わる分野をメインに学習することで合格ができました。

私は、教養試験の対策はリバティーアカデミー講座で行いました。予備校よりも安価で、学部の授業との両立もしやすかったため、とても効率的でした。また、頻出の分野を中心に扱っていたため、得点にも還元しやすかったように思います。講座がない時間の多くは数的処理に取り組みました。数字の関係する分野については全くセンスがなかったので、同じ参考書を繰り返し解いていました。

専門試験について

専門試験の対策は、大学の授業資料や勉強会で解いた問題をベースに行いました。直前期は学んだ知識を自分の言葉で説明できるよう、ノートに繰り返し書き出す練習をしていました。加えて、図書館情報学検定の問題集を読み返したりすることで、各分野の重要事項の再確認ができました。

また、『図書館年鑑』に載っている図書館界の動きや関連法規の改正などは、試験に多く出ており、目を通しておくべきであると感じます。特に国立国会図書館の専門筆記では、主力となって取り組んでいる事業について答える問題が出ていたため、『国立国会図書館月報』を

直前に見ておくと良いと思います。

面接試験について

面接（人物試験）は、あまり練習はしていませんでした。その代わり、先輩や友人にポイントを聞いたり、自己分析を手伝ったりしてもらいました。実際の面接では対話をすることが大切ですので、基本的な質問の答えを用意するだけで、その場で対応することが多かったです。

試験は事前に提出する面接シート（志望動機や大学で頑張ったことなどを記入）に従って行われますが、その他にも、図書館に行ったときの印象・そこに足りないものや、自分の長所と短所・他者との付き合い方・挫折やストレス体験などについて聞かれることも多かったです。変化球はあまりありませんが、ひとつひとつを深掘りしていく面接が多い印象です。

おわりに

以上が私の合格体験となります。全体を通してあまり根を詰めすぎないように取り組んでいました。集中して勉強する時間も大切ですが、リラックスする時間も同等に大事なものです。また、勉強会などで同じ志をもつ友人を持てたことで、情報交換や勉強の悩みの相談ができ、モチベーションに繋がりました。

公務員試験は期間が長く、プレッシャーもありますが、ぜひ皆さんも頑張ってください。私の体験が皆さんの一助になれば幸いです。

【受験スケジュール】

	国立国会図書館	国立大学法人	市区町村A	市区町村B	都道府県C	都道府県D	都道府県E
2013.4	勉強開始：勉強会・リバティーアカデミー講座						
2014.3	説明会	説明会				説明会	
2014.5	①教養択一	①教養択一	①教養・専門択一・論作文				
2014.6	②専門筆記・面接	×			①教養択一・専門筆記・論作文		
2014.7	③面接		②③面接	①教養択一・作文	②面接		
2014.8	×		④面接	②集団討論	○		説明会
2014.9			—	—		①教養択一・専門筆記	①教養・専門択一
2014.10						②面接	②面接
2014.11						○	—

〈合格体験記〉

司書職採用試験受験体験記

法学部　法律学科　４年

K.H

はじめに

私は今年度、国立国会図書館・国立大学法人（千葉大学）・日野市・東京都・我孫子市・横浜市の６つの自治体等の司書職採用試験を受け、東京都と我孫子市から最終合格を頂き、最終的に東京都立図書館に採用されることになりました。これからそれぞれの試験の概要やどのような対策を行ったか、試験を通じて感じたことなどについて書いていこうと思います。

試験概要

司書職採用試験は受験する自治体により形式や問題の難易度が全く異なります。

・国立国会図書館
　１次：教養試験
　２次：専門論述（図書館情報学以外でも受験可能）＋面接
　３次：面接

・国立大学法人
　１次：教養試験
　２次：専門択一＋各大学での面接等
　（大学によっては３次面接まであるところも）

・都道府県、市町村

自治体により本当に全く異なります。HPの職員募集ページなどに過去問か問題例が乗っているので、自分の受ける自治体がどのような試験を行っているのかよく確認しましょう。自治体によっては試験を受けに行ってみないとわからない場合もあります（我孫子市がそうでした）。参考例として、私が受けた自治体の試験方法を書いておきます。

・日野市（司書）
　１次：SCOA（SPIと普通の公務員試験の教養試験を足して２で割ったような試験）
　２次：事務能力検査＋グループディスカッション
　３次：面接

・東京都（Ⅱ類司書）
　１次：教養＋専門論述
　２次：面接

・我孫子市（司書）
　１次：SCOA＋教養論文
　２次：集団面接
　３次：個別面接

・横浜市
　１次：教養試験＋専門択一
　２次：教養論文＋面接

教養試験について

司書職採用試験の扱いが大抵の場合、中級・初級試験なので、国立国会図書館を除きそんなに難しくありません。ただし、文章理解・数的処理・社会科学・自然科学・時事問題など範囲は広いので早くから少しずつ勉強をしていく必要があります。特に、数的処理は問題数も多いので苦手な場合は早くから問題集をこなしておいた方がいいと思います。

私の場合、大学２年生から大学の行政研究所に通い、通常の行政職の公務員試験対策の講義を受けており、法律や経済学、社会学、行政学などは専門択一レベルに対策していたので、特に勉強はしませんでした。自然科学と地理・歴史などの社会科学はそれぞれ試験の１か月前か

ら行政研究所でもらったレジュメでひたすら暗記し、問題集を解くということはしませんでした。ただし、文章理解と数的処理は３年の２月からほぼ毎日数問ずつ解いていました。

SCOAですが、通常の教養試験の対策をしていれば、全然難しくないので対応できます。しかし、かなりスピードが求められ、形式が決まった試験なので、SCOAの問題集が出ているので一通り解いておいた方が安全です。

こんな感じでも１次試験は通るので、ちゃんと勉強していれば、心配する必要はありません。

専門試験について

専門試験は図書館情報学の試験ですが、国立国会図書館は図書館情報学以外にも法学や経済学、文学などさまざまな分野から選ぶことができます。自治体によってはない場合もあります。

対策としては、大学の講義で使った教科書とレジュメを見直し、図書館情報学検定試験の問題集を解いていました。また、iPodに講義を録音していたので、電車などでそれを聞いていました。択一形式の試験対策は特に法改正など、以前とは変わった点が出やすいと感じたので、そういった点を重点的に確認するといいと思います。論述形式の試験対策では図書館情報学の用語辞典の重要用語や教科書の重要部分を単語帳にして電車などで見て自分の言葉で説明できるようにしました。

面接試験対策

面接対策は、とりあえず受ける自治体等の図書館について知ることから始めました。図書館のHPから図書館に関する統計や方針、取り組みについて学び、実際に図書館に行ってみて感じたことをまとめておきました。そして、その図書館が抱える問題や自治体自体が抱える問題に対して司書としてどうアプローチしていきたいか考え、話せるようにしました。

他には、自分の長所・短所、自己PR、大学時代に頑張ったこと、なぜその自治体でなくてはならないのかなどインターネットでよくある質問集を調べ、それぞれの答えを用意しました。

そして、行政研究所の友達や先生、大学の就職キャリア支援の相談員に面接シートの添削や模擬面接をしてもらい、これらを実際の面接で話せるレベルまで仕上げていきました。

実際に面接を受けた印象ですが、どこも圧迫面接ではなく、穏やかな雰囲気でした。ただし、圧迫面接ではないものの、にこやかにぐいぐい訊いて来るところもあります。答えられないような質問でも「勉強不足でした」などと言えば大丈夫です。なので、どんな質問でも慌てないようにしっかり面接対策をしておいたほうがいいと思います。注意しなければならないことは、面接官には図書館関係者以外もいるということです。図書館情報学を学んでいれば常識であることも通用するとは限りませんので、図書館について全く知らない人にも理解できるように話すことを心がける必要があります。

おわりに

勉強はそこそこしていれば受かります。大事なのは面接対策です。3年生の夏くらいまでは勉強付けにならずアルバイトやサークル、ボランティア活動など、勉強以外でなにか頑張れることを見つけて取り組むことをおすすめします。

また、司書職の試験は民間や他の公務員試験よりも決まるのが遅く、とても長い戦いになります。周りもどんどん就職が決まり焦りが大きくなります。そんな中、一番の武器は一緒に試験を受ける仲間であると感じました。行政研究所でも、学生同士が仲が良い年は合格率が高いと言われています。図書館情報学研究会の勉強会や予備校などで積極的に交流を作っておくと、試験に挑む上で本当に強みになります。

採用枠が少ない司書職採用試験を受けるということでプレッシャーも大きく大変だと思いますが、諦めずに頑張れば結果はついてきます。頑張ってください！